今こそ問われる「地域力」

「地域力」が注目される中で、これからの私たちに必要なものとは。2月25日に行われた地域福祉フォーラムの様子を振り返ります。

高齢化や東日本大震災を考えると、これからは公的サービスだけで私たちの暮らしは守り切れないと考えています。

3．11以来、何度も被災地に入りました。陸前高田市の長洞（ながほら）という集落では、単に行政に要望するのではなく、集落で話し合って復興マスタープランを作り、昨年末に要望書として行政へ提出しました。自分たちができることは自分たちでする。かつてない災害の経験を住民自らが、子どもや孫の代へ残す作業が、今進められています。

宮崎県都城市の吉之元（よしのもと）地区の事例です（高齢化率47．4％。都城市全体の高齢化率23％）。高齢化率は市平均の倍なのに、介護保険の認定率は逆に低い。農村部なので元気な高齢者が多い。元気な高齢者がこれからも元気に暮らし続けることが大事です。2カ月に1回、自治会長、公民館長、民生委員など地域のリーダーと社会福祉協議会の職員が、地域をどうやって元気にするかを考える「地域生活を語る会」を行っています。初めは自分たちが何をやれば良いのかさえもわからない状態。公民館長が「何よりも人材が大切。地域のことを皆で考えよう」と、講師を呼んでセミナーを開催したところ、50人も集まりました。住民も危機感を持っていたのでしょう。また、「お散歩見守り隊」というものがあり、男性が11人集まって高齢者のお宅を訪問。声かけとともに、電球の交換などのお手伝いをします。見守る人もウオーキングを兼ねた健康づくり。夕方にはお酒を飲みながら町の将来を語り合います。「うちの町には11人の民生委員がいる」と、民生委員は喜んでいます。みんなでできるということが重要です。

今までは地域の福祉のことは民生委員に任せる地域が多かったのではないでしょうか。ただ、今後一人暮らし高齢者などが増えると、民生委員だけでは無理です。災害時に民生委員が全員を救うのも不可能です。地域のリーダーや若い人たちにも地域の福祉問題を理解してもらう必要があります。

まずは、地域の「強み」と「課題」を話し合うことです。どうしても課題に目が行きがちですが、地域の強みを活かした地域づくりが大切です。これからは気が付いた人、地域を何とかしたいという人が集まることです。自治会長は、大変忙しい。民生委員もかなり忙しい。大事なのは、地域を愛する人や地域を変えていきたいと思う人。単に順番で回ってくる役割をこなすだけでは続かず、活性化しません。

吉之元地区は危機感を持っていました。地元を何とかしたいと。そのためには、定期的な話し合いの場が必要です。その時には専門家も呼びます。住民から呼ばれれば、行政や社会福祉協議会は拒否できません。住民から声を出すことが大事です。地域のニーズを分析し、人材発掘と協議体制づくりを行うのです。継続的に見守り、いざという時には専門職が入る。そんな日常活動が大変重要だと思います。

これからが勝負です。今後の5年から10年が超高齢化社会に入るまでの大事な時期です。まずは自分たちの地域のことを考え、地域でできることが何かを考えていただきたいと思います。

【基調講演】

今求められる地域の支え合い

講師：法政大学現代福祉学部教授　宮城（みやしろ）　孝（たかし）　氏

パネルディスカッション　―地域での実践活動報告―
テーマ「いきいきと豊かに暮らすための地域力とは」

㊨ 介護予防グループデイ国分くつろぎ　代表　川越紀美子（かわこしきみこ）さん（69歳）

㊥ 徳田地区民生委員児童委員協議会　副会長　佐竹（さたけ）　一男（かずお）さん（72歳）

㊧ 田鶴浜　伊久留町会　相談役　小浦（こうら）　忠吉（ただよし）さん（60歳）

介護予防グループデイ国分くつろぎ

グループデイ国分がスタートして10年目。私がグループデイ活動をはじめたのには3つの理由があります。1つ目は、看護師として訪問看護の仕事をしていたこと。2つ目は、義母が介護保険サービスを受けて自宅で療養し、わが家で最期をみとることができたこと。3つ目は、定年してから民生委員の活動をしたことです。

民生委員活動を通じて、近隣に仲間ができました。家事と両立しながら継続してやろうとするならば自宅でと思い、平成15年に自宅を改装しました。高齢者が気軽に集まり、楽しくくつろげる「場所」と「時間」を作りたかったのです。自宅で週2回と、国分公民館で月2回グループデイを行っており、町会や地区組織の皆さんと協力しながら一体となって活動しています。老いを認め、自分の意思で自分の家・地域で生活する。そして、一人一人の生き方を大切に思いやりながら、日常的に地域の人たちと関わりを持ち、つながって生活したいと思っています。人生のギリギリまでこの地域で生活でき、家で大往生が可能になる地域福祉、在宅医療になればいいと願っています。

徳田地区民生委員児童委員協議会

徳田地区は毎月第2月曜日に定例会を開催しています。昨年度からは地域包括支援センターの専門員も参加しています。配食活動は毎月第3金曜日。お弁当には小中学生の心のこもった絵手紙包装で包み、民生委員全員で配布しており、ちょっとした工夫が喜ばれています。また、配食活動は女性の民生児童委員と食生活改善推進員で料理を作っていますが、男性の民生児童委員が試食してアンケートを書きます。その意見も踏まえて、より良いものを作るように心がけています。

私たちは学校との連携にも力を入れています。徳田小学校と朝日中学校へ月1回定例訪問します。子どもたちの授業や生活の様子を3～4人ずつ交代で見に行くのですが、子どもたちともだんだん顔見知りになり、あいさつする生徒も多く、自然に接することができる雰囲気になってきました。

徳田地区の特徴は、保育園、小学校、中学校、高校、社会福祉施設があることです。公民館を拠点としたネットワークがしっかりと機能していますので、これからは地域全員での見守りネットワークを作って行くことが目標です。

田鶴浜　伊久留町会

能登半島地震の時に町会長でしたが、情報伝達できる組織体制がないことを痛感しました。そこで、平成21年4月から地域福祉ネットワーク自主防災組織の活動を立ち上げました。目的は「ともに生き支え合うまちづくり」。現在は多くの町会で組織があるようですが、訓練だけは定期的にやってほしいと思います。続けることで体に覚えさせるのです。そのほか、ＡＥＤの操作講習会、火災報知機を共同購入して全世帯への設置（高齢者宅は役員が設置）も行いました。

「にこにこ農園１９６（いくろ）」は、このままでは地域がなくなってしまうという危機感から平成15年に誕生した、任意の地域づくり団体です。野菜直売所の開設や収穫祭、外国人の農業体験の受け入れなどを行っています。

両方に共通するのは「集まる場」。その場でのコミュニケーション（＝飲みにケーション）は酒を飲むことが目的ではなく、集まって何でもいいから話をすることです。ここで仲間意識が強まり、いろいろなアイデアや発想が生まれます。また、地域の人材をうまく使うことが大事です。実際に仕掛けているのは3人ほど。仕掛けながら周りをうまく乗せるのがコツです。